

水、緑、伝統を未来につなぐ

# 千波の輪

## 千波地区コミュニティプラン

### ふれあうまちづくり

このプランは住民自身が地域の将来を考え、この地域にあったまちづくりをすることを目指すものです。

千波地区では、「水、緑、伝統を未来につなぐ千波の輪」のキャッチフレーズをもとに平成元年（1989年）水戸市制100周年記念事業を行いました。

千波地区は、水に恵まれた地域です。白鳥が泳ぐ市民の憩いの場「千波湖」、笠原水源の湧水が流れる清流「逆川」、そして、さけがのぼる「桜川」があります。

緑豊かな少年の森、逆川緑地の遊歩道等、心和む風景もあります。

伝統としては、昭和52年（1977年）からはじまった「千波太鼓」と今年で38回を迎える、小学校校庭で行う「親子盆おどり」があります。

水、緑、伝統の地域資産を守り、みんなが「つながり」の心を持って手をつなぎ、それが、大きな災害のときには「絆」となり、大きな力となるのです。千波地区がみんなの故郷（ふるさと）となるよう、未来につないでいきたいものです。

故郷千波を創る協議会

## I 安心・安全なまちづくり

安心して安全に暮らせる地域を目指して、平成9年5月に「防災対策委員会」、平成17年に「防災防犯対策委員会」を設立し、地区を第一、第二支部（千波交番管轄）、第三、第四支部（南口交番管轄）に分けて活動を行っています。平成22年10月には、防災マップを作成し全戸配布しました。

平成23年11月には、水戸駅南口周辺地域が「水戸市安全なまちづくりモデル地区」に指定され、防犯活動をさらに積極的に行っています。

- 1 防災活動の推進
  - (1) 防災訓練の実施
  - (2) 防災マップの活用
- 2 防犯に関する意識の啓発
  - (1) 防犯パトロールの実施
  - (2) 「子どもを守る家」の事業継続
  - (3) スクールガードの充実
  - (4) あいさつ、声かけ運動の推進
  - (5) 不審者情報の発信



## II 水と緑を守り、未来につなぐまちづくり

千波地区は、水が豊かで緑に恵まれたところです。この美しい風景を未来を築く子どもたちにつないでいかなければなりません。千波地区がみんなのふるさととして、いつまでも心に残るよう守っていきます。

- 1 きれいな水を守り次世代につなぐ
  - (1) 逆川の清掃の実施
  - (2) 千波湖清掃の実施
- 2 緑を守り、花いっぱい運動の推進
  - (1) 緑を生かす町内、公園、道路の清掃
  - (2) 花壇を活用した町の美化



## III やさしさあふれるまちづくり

住民の皆さんが、日頃からやさしい気持ちで人とふれあい、おつきあいをすることにより、やすらぎのある地域を目指します。

千波地区は敬老会の招待者数が1,526人（平成25年7月現在）と高齢の方も大勢おられます。高齢の皆さんと子育て中の若い人達、そして、住民の皆さんが心豊かに過ごせる地区となるよう努めます。

- 1 ふれあいで生きがいづくり
  - (1) 敬老会の開催
  - (2) 一人暮らしの高齢者との交流
    - ・食事会の開催
    - ・年賀状、暑中見舞いの発送
  - (3) 女性学級の開催
  - (4) 寿大学の開催
  - (5) 「童謡を歌う会」の開催
- 2 子育て支援活動の推進
  - (1) 「子育て広場」の開催
  - (2) 「親子で遊ぼう」の開催

## IV 「つながり」を深めるまちづくり

住民の皆さんが孤立することのないよう、ふれあいの機会を増やし、つながりのある地域になるよう努めます。地区の情報を町内会長と共有し、住民の皆さんにも広く発信をして、魅力ある事業を実施し、つながりが深まるよう取り組みます。

- 1 コミュニティ組織の充実
  - (1) 町内会長連絡協議会の開催
  - (2) 広報紙「ふるさと千波」の発行
- 2 魅力ある事業の実施
  - (1) 「ふれあい祭り」の開催
  - (2) 「視察研修」を取り入れた生涯学習の推進



## V 伝統で楽しいまちづくり

千波地区には、「千波かるた」があります。昭和64年に水戸市が市制100周年、千波小学校が創立15周年を迎えました。これを記念して、子どもたちや保護者から読み札を募集してつくられました。このかるたには千波の史跡や自然が網羅されています。これを千波地区の宝として未来につないでいきます。

- 1 郷土文化の継承
  - (1) 千波かるた大会の開催
  - (2) 千波かるたを語る会の実施
  - (3) 千波かるたウォークラリーの開催
  - (4) 千波太鼓の継承
  - (5) 親子盆おどり大会の開催



## VI 元気で健康なまちづくり

千波地区の皆さんが心も体も元気で暮らせる地域を目指します。老いも若きも体を動かし、体力の向上、健康の維持に努め、みんなが楽しく暮らせるまちにします。

- 1 みんなで楽しく体力向上
  - (1) 市民運動会の開催
  - (2) 三世代交流歩く会の開催
  - (3) お父さんソフトボール大会の開催
  - (4) ママさんバレーボール大会の開催
  - (5) ソフトバレーボール大会の開催
  - (6) ふれあいゲートボール大会の開催
- 2 高齢者の健康づくり
  - (1) 千波いきいき健康クラブの実施
  - (2) シルバーリハビリ体操の実施



## 千波地区のあらまし

千波湖の南に広がる千波台地と水戸駅の南の吉田台地が千波地区を形成しています。

地区の東側、千波中学校の近くには、6世紀頃つくられた「吉田古墳」(国指定史跡)があります。全長35mもある大型古墳です。平成25年11月の発掘調査では、全国でも20か所しか確認されていない八角形古墳であることがわかり、市では公園として整備することを考えています。

西側の千波台地では、9代藩主の斉昭公が千波原で追鳥狩りを行い、身分にかかわらず楽しむことができるのは、お茶が良いと考え、宇治から種をとりよせ御茶園で栽培しました。

明治の初期には、志ある者に土地を分与し開墾を奨励しました。この頃から梨の栽培がはじまり、昭和のはじめ頃には千波の梨として広く知られるようになりました。

大正期に千波湖の一部を埋め立ててつくられた水田を、昭和39年にはじまった駅南土地区画整理事業でその水田を埋め立て、昭和41年に千波大橋が開通し、昭和49年には水戸駅南口を開設、住宅や商店が立ち並ぶ市街地をつくり、駅南が活性化されました。

現在(平成26年5月1日)の千波地区の人口は、17,043人、世帯数は7,897世帯となっています。水戸市33地区の中でも最も大きな地区です。

平成5年6月に自治連合会と市民憲章推進協議会が一体となってできた「故郷(ふるさと)千波を創る協議会」の加入世帯は4,084世帯、加入率は52%となっています。

発行 平成26年5月  
千波地区コミュニティプラン作成委員会

